

平成 27 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月

1. 学校概要

学校名 市川市立大野小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒 272 - 0804
千葉県市川市南大野 1-4-2-1

E-mail work3-ohno@ichikawa-school.ed.jp

Website www.ohno-syo.ichikawa-school.ed.jp

児童生徒数 男子 412 名 女子 381 名 合計 793 名
児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

1. テーマ

自分たちにできるエコ活動に取り組むことで、地球の環境について考える

2. ねらい

わたしたちの生活は限りある資源によって支えられていることに気づかせ、大切な資源（地球の環境）を大切にするにはどうしたら良いかを考えていく。自分たちができる様々なエコ活動を通して、地球環境と自分たちとの生活の関わりについて理解を深めさせる。地球のために自分たちができることを考え、実践していくことで、持続可能な地球の環境づくりに貢献する人材の育成を図る。

3. 指導計画

《年間》

4～5月	浄水場で安全な水が作られていることを学習し、水の大切さについて考えるきっかけをつかむ
6月	水を大切にするために自分たちがどのようなことができるかを考え、実践する
7月	水だけでなく、地球のために自分たちができることを考える
9月	それぞれのグループで地球のためにできることを企画し、実践の準備を進める
10月	第1グループ企画提案・実践・振り返り
11月	第2グループ企画提案・実践・振り返り
12月	第3グループ企画提案・実践・振り返り
1月	第4グループ企画提案・実践・振り返り
2月	第5グループ企画提案・実践・振り返り
3月	今後私たちが地球のためにできること・続けられることを考える

4. 実践の内容

●実践1「節水チャレンジ」

花王の教育サービスの1つを利用し、水の使用量は工夫次第で少なくできるということを学んだ。このことについて、実際に自分たちは家でどれくらいの節水ができるかを調べた。1週間の節水チャレンジ後、「22568リットル」もの水を使わずに生活することができると驚き、これからも地球のために節水していこうという気持ちを持った。



地球のためにできることを調べる・計画する・実践する

●実践2「大野クリーン作戦」

自分たちの手で大野の町のごみを拾って地球をきれいにしようと試みた。たった40分で、大きなゴミ袋6個分も集められたことに驚くと共に、これほどにもゴミがたくさん落ちているということに気づき、地球をもっときれいにしなくてはいけないという意欲を持った。



●実践3「再生紙を作ろう」

学校を含め、いろいろな場所で紙が無駄に使われていることに問題意識を持ち、再生紙を作ることにした。再生紙は、本来、ミキサーや紙すきを必要とするが、「誰でも、どこでも」できるように、簡単にできるペットボトルで作る方法を考えた。作った紙は、“和みアート”用の紙として利用し、再生紙の利用価値も付加した。簡単に再生紙を作ることができることがわかり、いらぬ紙をそのままゴミにするのではなく再利用していこうという気持ちに繋がった。



●実践4「節電チャレンジをしよう」

電気のつけっぱなしをしていることが多いことに気づき、節電チャレンジをすることにした。チャレンジにあたっては、オリジナルパンフレットを作成・配布し、クラス全員で家と学校で節電を行った。一週間、ちょっと意識するだけで多くの電気を節約できることを知り、いろいろな場面で資源を無駄にしないための取り組みができることに気づいた。

地球のためにできることを広める

●実践5「わくわくエコマーケットを開いて私たちにできることを広めよう」

1年間様々なエコ活動に取り組んできた。その成果をポスターにまとめ発表したり、わくわくエコマーケットを開いて同学年の友達に地球の環境を守っていく方法を伝えた。



継続して地球のためにできることを考える

5. 実践の成果

地球のためにできることを考案し活動していく中で、児童に課題意識を持たせることができ主体的に学ぶ意欲を高めることができたと共に、課題に対する考えを構築し実践する態度を育むことができた。

6. 実践の課題

今回は学級内と学年間での一時的な交流に留まっていた。そのため、今後は学校や地域ぐるみでの活動にしていくことで、長い間継続して活動をしていけるようにする必要がある。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）